

略 歴

- 1940 年(昭和 15 年) 9 月 和歌山県新宮市に生まれる
- 1964 年(昭和 39 年) 3 月 大阪大学文学部 卒業
- 1964 年(昭和 39 年) 4 月 大阪大学大学院文学研究科修士課程 入学
- 1966 年(昭和 41 年) 3 月 大阪大学大学院文学研究科修士課程 修了
- 1966 年(昭和 41 年) 4 月 大阪大学文学部 助手
- 1968 年(昭和 43 年) 4 月 和歌山大学経済学部 助手
- 1969 年(昭和 44 年) 4 月 和歌山大学経済学部 講師
- 1971 年(昭和 46 年) 4 月 和歌山大学経済学部 助教授
- 1974 年(昭和 49 年) 3 月 在外研究 (連合王国, イタリア, ギリシャ, エジプト) (～1975 年 2 月)
- 1979 年(昭和 54 年) 9 月 内地研修 (京都大学) (～1980 年 2 月)
- 1984 年(昭和 59 年) 4 月 和歌山大学経済学部 教授
- 1985 年(昭和 60 年) 4 月 和歌山大学評議員 (併任) (～1987 年 3 月)
- 1987 年(昭和 62 年) 4 月 和歌山大学学生部長 (併任) (～1989 年 3 月)
- 1989 年(平成 元年) 4 月 和歌山大学経済学部長, 和歌山大学経済短期大学部主事
(1989 年 5 月, 部長に名称変更) (併任) (～1991 年 3 月)
- 1991 年(平成 3 年) 4 月 和歌山大学評議員 (併任) (～1993 年 3 月)
- 1995 年(平成 7 年) 4 月 和歌山大学評議員 (併任) (～1997 年 3 月)
- 2000 年(平成 12 年) 9 月 放送大学和歌山学習センター客員教授 (～2006 年 3 月)
- 2006 年(平成 18 年) 3 月 定年により和歌山大学を退職

非常勤講師：

- 大阪市立大学教養部 (1970. 4. 1～1972. 3. 31, 1975. 4. 1～1977. 3. 31)
- 大阪大学教養部・言語文化部 (1972. 4. 1～1974. 3. 31, 1977. 4. 1～1979. 3. 31,
1980. 4. 1～1981. 3. 31, 1982. 4. 1～1987. 3. 31)
- 羽衣学園短期大学 (1984. 4. 1～1987. 3. 31)
- 大阪大学文学部 (1995. 4. 1～1996. 3. 31)
- 大阪女子大学文学部 (1997. 9. 1～3) (集中講義)

著 作 目 録

〔Ⅰ〕 著 書

- | | | |
|-------------------------|-----|------------|
| E. M. フォースターと『土
地の霊』 | 英宝社 | 1983 年 5 月 |
|-------------------------|-----|------------|

〔Ⅱ〕 論 文

- | | | |
|--|--|------------|
| 荒れ狂うパン——E. M.
Forster の短編小説 | 『待兼山論叢』 創刊号
大阪大学文学会 | 1967 年12月 |
| イタリア人の子供のこと——
<i>Where Angels Fear to Tread</i>
と ‘The Eternal Moment’ | <i>Osaka Literary Review</i> No. 7
O.L.R. 同人会 | 1968 年 6 月 |
| E. M. Forster の <i>genius loci</i> | 『経済理論』 107 号
和歌山大学経済学会 | 1969 年 1 月 |
| E. M. Forster とエドワード
朝 | 『経済理論』 111 号
和歌山大学経済学会 | 1969 年 9 月 |
| <i>Ernest Pontifex, or The Way
of All Flesh</i> について | 『経済理論』 115 号
和歌山大学経済学会 | 1970 年 5 月 |
| アレキサンドリアの灯台
——E. M. Forster の歴史
と現実 | 『経済理論』 120 号
和歌山大学経済学会 | 1971 年 3 月 |
| E. M. Forster の小説におけ
る「沈黙」 | 『経済理論』 127～131 合併号
和歌山大学経済学会 | 1972 年11月 |
| 『ハワーズ・エンド』の全体
像 | 『季刊 英文学』 10 巻 2 号
あぽろん社 | 1973 年 2 月 |
| Mr. Emerson Survives——
E. M. Forster の書物と生 | 『村上至孝教授退官記念論文集』
英宝社 | 1974 年 4 月 |

残照の中で	『経済理論』154号 和歌山大学経済学会	1976年11月
小説の空間構造と作家の構造 感覚	『経済理論』162号 和歌山大学経済学会	1978年3月
小説の言葉——‘The Road from Colonus’の場合	『経済理論』168号 和歌山大学経済学会	1979年3月
二人のジョージ	『山川鴻三教授退官記念論文集』 英宝社	1981年4月
George Eliot: <i>Silas Marner,</i> <i>the Weaver of Raveloe</i> を読 む	『経済理論』181号 和歌山大学経済学会	1981年5月
ダイナ・モリスの声—— <i>Adam Bede</i> 第45章の問題	『経済理論』200号 和歌山大学経済学会	1984年7月
音, 沈黙, そして言葉—— 『インドへの道』第3部	『イギリス文学評論』 創元社	1986年4月
<i>A Passage to India</i> における 聖書の引喩	『経済理論』212号 和歌山大学経済学会	1986年7月
日英国際交流の一断面——カ ズオ・イシグロの作品をめぐって	『文化と学術の国際交流』 和歌山大学経済学部	1989年3月
<i>A Passage to India</i> における 洞窟の反響	『経済理論』229号 和歌山大学経済学会	1989年5月
外国文化受容の型——夏目漱 石の場合	『日本における外国文化受容 の研究』[平成5年度特定研 究報告書] 和歌山大学経済学部	1994年3月

- | | | |
|--|-------------------------|----------|
| E. M. フォースター論の変遷 | 『英語青年』140巻2号
研究社 | 1994年5月 |
| 本能的叡智の継承——
<i>Howards End</i> 再考 | 『経済理論』265号
和歌山大学経済学会 | 1995年5月 |
| 「語りの主体」ということ——
木下順二の仕事をめぐって | 『経済理論』280号
和歌山大学経済学会 | 1997年11月 |
| 比較文化の視点——
<i>A Passage to India</i> と『子
午線の祀り』 | 『経済理論』289号
和歌山大学経済学会 | 1999年5月 |
| <i>Howards End</i> における視点
の問題 | 『経済理論』298号
和歌山大学経済学会 | 2000年11月 |
| 〔Ⅲ〕書 評 | | |
| 山村元彦著『E. M. フォー
スター試論』あぼろん社 | 『英語青年』138巻12号
研究社 | 1993年3月 |
| 小野寺健著『E. M. フォー
スターの姿勢』みすず書房 | 『英語青年』147巻10号
研究社 | 2002年1月 |
| 〔Ⅳ〕そ の 他 | | |
| シング | 『社会科学大事典』第10巻
鹿島出版 | 1969年 |
| 『インドへの道』——マラバー
洞窟の反響について;『対位
法』にみる「小説の音楽化」 | 『教養のためのイギリス文学』
創元社 | 1985年3月 |